

大崎耕土支援プロジェクト 南原穴堰保全活動

宮城県南郷高等学校
代表 岩井 大空

1 みどり戦略との 関連性

今回の取り組みは、みどり戦略の「(5)食料システムを支える持続可能な農山漁村の創造① 基盤整備の推進」と関連している。

昨年、世界かんがい施設遺産に認定された南原穴堰(図1)のある中山平では、限界集落化が進んでいる。そのような地域での伝統的な水管理システムの持続可能な維持を目指す。

2 目的

南郷高校が位置する大崎耕土は、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域として国際機関から認定されている。その中でも南原穴堰は、大崎市鳴子温泉にある水路トンネルで、1644年～1647年頃に手堀りで作られ、現在も約13haの地域の水田を潤している。しかし、現在は人口減少、超高齢化等の社会問題に直面し、持続が困難な状況にある。

本校では令和2年度から地域の方々からの学びを得ながら、共にその維持、持続を目指す支援活動を行ってきた。その代表的な活動が「江払い」という、南原穴堰の清掃だ。

3 取組内容

昨年度までは希望者を募り、保全活動を行っていた。(図2、図3)しかし、今年度からは全校生徒(図3)で保全活動に取り組んだ。

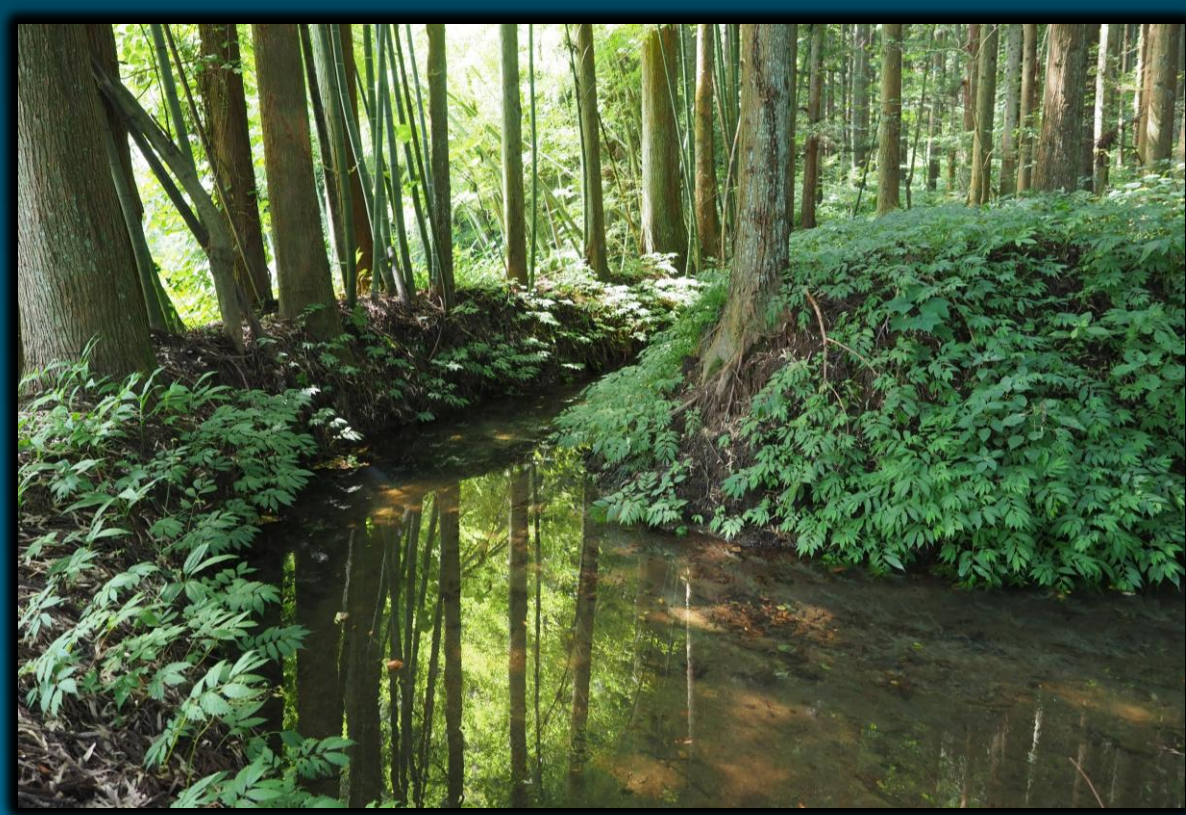
各学年ごとに、担当のエリアを協力しながら清掃を行った。(図4)

また、今年度は南原穴堰の隧道の見学も行った。(図5)

4 結果

全校生徒で協力して取り組めたため、水路をとてきれいにすることができた。清掃中は泥に足を取られ、落ち葉や木の枝を持ち上げる時に、かなり強い力が必要になるため、高齢者には厳しい作業だと、改めて感じた。

隧道の見学では、当時岩を削ったノミの痕を見ることができた。



(図1) 南原穴堰



(図2) 清掃前の水路



(図3) 保全活動の様子



(図5) 隧道

5 まとめ

今回の保全活動では、高齢化や人口減少が進むこのような地域で、江払いのような重労働を続けていくことの厳しさを改めて実感した。

昨年、南原穴堰は世界かんがい施設遺産に認定され、その記念シンポジウムにおいて本校のこれまでの取り組みも高く評価された。

しかし、本校は令和10年度の閉校が決まっており、今後、南郷高校としての支援活動は行えない。そのため今後は、これまで学んだことを一般の方に広く伝える活動を行い、大崎耕土の持続的な支援活動に繋げていきたいと考える。



(図4) 全校生徒集合写真